

2008年度は、薬剤師1名の済生会熊本病院への異動にともない、新人薬剤師1名を採用したため、薬剤師4名、事務員2名、計6名のスタッフでスタートした。新人薬剤師を含む薬局スタッフの育成と、年度末の電子カルテ導入に向けた医薬品に関するシステムの構築・運用面の確立、および薬剤師のリスク管理へのさらなる関与を目標に掲げ、病院経営にも貢献できるよう努めた。

1. 人材育成

これまで継続してきた熊本病院との薬剤師ローテーションに一区切りをつけ、当院採用スタッフによる薬局運営を開始。新人薬剤師については、当局独自の教育シートを用い、OJTを基本に薬剤師としての育成のみならず医療人としての育成にも力を注ぎ、職員・患者とのコミュニケーションスキルの向上に努めた。病棟回診にも参画させ、1年目から他部署との連携強化にも貢献できたと考えます。また、薬局スタッフに関しても、薬剤師、事務員問わずコミュニケーションスキルを磨き、日常診療における患者満足度を向上すべく取り組み、その結果、満足できる評価を受けることができたと考えている。このことに甘んじることなく、さらなる接遇面の強化に取り組みながら、個々の薬剤師、事務員としての専門性を高める努力を続けていく。

2. 医薬品在庫管理システム (SPD: Supply Processing and Distribution) の活用

2007年度導入したSPDを有効活用し、在庫管理浪費時間の軽減等々、さらなる業務効率化を図り、より専門的な業務にとりくむことができるよう業務配分見直しを行い、各薬剤師の各種回診 (NST回診、ICT回診、緩和ケア回診等々) への高い参加率を維持することができた。また、適性在庫維持による在庫金額の低減、および有効期限管理によるデッドストックの削減による経営コスト削減にも寄与できたと考えます。

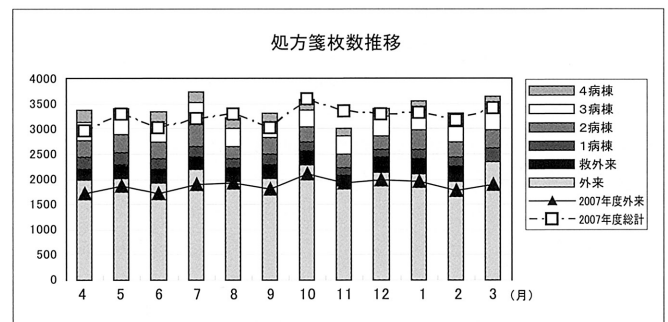
3. 電子カルテ導入

2009年3月の電子カルテ導入 (オーダー開始) に向けた、医薬品に関するシステム構築に下半期より精力的に取り組み、限られたパッケージソフトの中で、マスターメンテナンスをはじめ、機能性・操作性・応用性を追及し、医師が使用し易い環境整備に取り組んだ。特に、スムーズな運用とコスト削減を図るべく、患者処方歴の電子カルテへのコンバートを薬局スタッフが入力を行い、完璧とはいかないまでも医薬品に関するシステム移行はスムーズに行えたと考えます。リスク管理の面からも、今後さらなるシステム構築による機能性の追求を行い、電子カルテ導入プロジェクトに貢献できるよう取り組んでいく。

4. 薬局内業務改善

外来調剤については、2008年度も薬局の中心業務であった。外来処方件数も年々増加。その中で、待ち時間増加による患者満足度の低下が生じないように、事務員、薬剤師が連携をとり、特に外来患者に対しては、接遇面のみならず、積極的な声かけ・状況説明を行うことにより患者との信頼関係維持に努めた。

入院調剤については、定期処方発行サポートおよび薬歴管理による質の高い処方監査の実施等々、多忙な医師のバックアップに少なからず貢献できたと考えます。また、持ち込み薬の確認や、特に包括病棟・病室においては持ち込み薬の有効利用も推進し、医療費削減等々、病院経営にも少なからず貢献できたと考えます。



最後に、2009年度は、電子カルテのフル稼働による情報の一元化・共有化などメリットを活かし、リスク管理をはじめ質の高い医療提供に大いに貢献できるよう、薬局スタッフ一丸となって取り組んでいきたい。